総合

やまなみハイウェイで誘客

地震契機に協議会始動　新プロジェクト発表

やまなみハイウェイ観光連絡協議会は12月14日、大分県・由布院と熊本県・阿蘇を結ぶやまなみハイウェイの観光を紹介する「新プロジェクト発表会」を東京都内で開催した。やまなみハイウェイのブランド化を目指す。

協議会のメンバー

発表会では冒頭、同協議会の桑野和泉会長が「熊本地震を契機にできた組織。官民が力を合わせて世界に誇る地域をつくり上げていきたい」とあいさつ。支援するキリンの林田昌也執行役員CSV戦略部長は「黒川から由布院を結ぶエリアには魅力的なコンテンツや人、場所がある。エリア全体でお客さまを迎え、ファンやリピーターを増やしてほしい」と述べた。

同協議会は、2016年4月の熊本地震以降に黒川温泉と由布院温泉が県境を越えて連携したのをきっかけに、17年2月に7市町村22団体で立ち上げた。

新プロジェクトでは、由布岳の自然や各市町村の魅力を伝える「やまなみ周遊動画」を使用したPRやエリアにある千件以上のコンテンツの情報発信、ARを使った動画コンテンツの作成、特産品のぶどうを使ったイベント「葡萄（ぶどう）プロジェクト」などを実施し、国内外からの誘客を拡大する。

また、18年春頃には由布院駅の隣にツーリストインフォメーションセンターが完成し、情報を一元化して発信する。【長木利通】

鳥羽市温泉振興会

設立10周年で宣言

三重県鳥羽市の鳥羽市温泉振興会がこのほど、2017年4月に発足10周年を迎えたことを記念して「10年宣言」を発表した。鳥羽市温泉振興会や鳥羽市の関係者＝写真＝が12月4日、東京都台東区の観光経済新聞社を訪れ、鳥羽温泉郷10周年について紹介した。

鳥羽温泉郷は、伊勢志摩国立公園の宿泊拠点で、四つの有人離島や漁村集落、ミキモト真珠島、鳥羽水族館などが見どころだ。また、海女の人数が日本一の場所としても知られている。

鳥羽市温泉振興会は、2007年に設立。入湯税の導入を決めるなど、鳥羽市の観光振興に取り組んでいる。10年宣言をこのほど発表。今後、「宿づくりが地域を変える」「国際化時代に打ち勝つ旅館づくり」を理念とし、宿泊産業の地位向上や地域が変わるための存在価値の提供、発信を行う。

体験型観光が日本を変える

地方を応援する観光を

<57>

体験教育企画社長　藤澤 安良

新しい年を迎えるたびに、地方がなんとか明るい未来につながる年になればと思っている。しかし、手強い課題が山積している。

田舎をゆっくり走る1両のローカル線に乗った。線路は時折、集落の中を走っている。乗り降りするお年寄り以外は、歩いている人の姿が見えない。みんな車なのだろう。東京では駅も大きく、電車の乗り換えでもよく歩く。地方から来た人は、朝のラッシュ時にぶつからずに人を避けて歩く速さとその様子に驚いている。訪日外国人も同じように思っているらしい。JRのホームで「次の列車は短い10両編成で到着します」とのアナウンスに「10両がなぜ短いのか、うちらのは1両だよ」という。東京のJRは15両あるからなのだが。私が「電車が行ってしまった。3分も待つのか」とつぶやくと、「うちらの方は1時間に1本しか走っていないから、3分は待っているうちに入らない」という。それもそのはず、その線からJRの特急に乗り換えるのに待ち時間は39分もある。駅には小さな売店が一つだけ、日曜日なのに駅前の食堂は本日休業の看板。時間をもてあますことになる。田舎だからで済ませてはいけない。もっと何か工夫がありそうなものだ。

そのローカル線は田園地帯を縫って走る。その車窓からは、耕作放棄地やその年月が経過した荒廃地が目に付く。さらには間伐ができていない杉やヒノキの人工林が広がっている。日本の標準的な耕作面積での稲作では生計が難しい。刈り取り後の田んぼや、何種類もの野菜が栽培されている畑を見ると、大根が収穫期を迎えている。1年中食べられるが本来は秋から冬が旬である。スーパーには土の付いていない真っ直ぐな大根が並ぶ。畑には曲がったり、二股三股になったものも収穫されている。その背景や現場の真実を知らない人も多い。

先祖が開拓し守ってきた田畑を後世につなげたいと思う気持ちがあると思う。しかし、後を継いでくれるはずの子や孫が町や都市に出て行ってしまう。いかんともしがたい現実がある。それでも、国土保全と食料自給率38%の1次産業を支えている。みんな頑張って生きていると思う。何気ない農山村の風景だけど、農林業の危うい現状が見て取れる。

田舎の情報はテレビやネットで得られるが、現実感は薄い。意識も現実も大きな差異がある。その差異と現実感がないことこそ、現地を訪れる魅力と目的になる。本当においしいものや新鮮なものは現場にある。そんな田舎の真実と価値を理解してもらうには、来て見て、労働し体験し交流し、食べてもらうしかない。旅人にこびを売らず、着飾らず、背伸びせず、ありのままの暮らしや生き様がドラマになる。真実を知る旅、大変な旅、そんな旅こそ、わが国に必要な旅である。さらには、ふるさと納税は地方を応援するはずのものだが、物欲的な返礼品合戦になっている。労力や観光で地方を応援する社会貢献が旅となるような時代を築きたいものである。

静岡市

観光の魅力をアピール

東京で700人参加の交流会

静岡市は12月13日、世界水準の都市を目指したイベント「静岡市交流会in東京」を東京都港区の東京プリンスホテルで開催した。静岡にゆかりがある人たち約700人が参加。茶や地酒などの食、静岡港や大道芸などの観光の魅力を紹介した。

あいさつする田辺市長

交流会では冒頭、静岡市の田辺信宏市長が「交流会は今回で6回目。ゆかりがある人たちと力を合わせ、静岡市を世界に向けて発信したい」とあいさつ。静岡市広報課の藤澤翔主査は「静岡市ゆかりの人が横のつながりを深め、新たなPRなど展開が進むことを期待している。歴史や文化を体験し、静岡市を感じてもらいたい」と呼び掛けた。

会場では、静岡おでんやホルモンなど、名物料理が振る舞われたほか、静岡市在住シンガーの太田克樹さん、静岡市を拠点に活動するアイドルグループ「ロザリオクロス」のコンサートなどが行われた。

竹内美樹の口福（こうふく）のおすそわけ

209

超がつく蟹好きの筆者にとって、昨年はとても残念な出来事があった。上海蟹のダイオキシン汚染問題だ。以来上海蟹を食す機会を逸していたが、先般大連を訪れた際その旨をもらしたところ、何と現地の方が取り寄せて下さった。

同じ中国国内なのだから、大連でも売っていそうなものだが、海に近い大連では淡水の蟹はあまり食べないのだそうで、なかなか手に入らないという。

活けの状態で取り寄せた蟹をレストランで蒸していただき、久し振りに大好物にありつくことができた。雌雄両方そろえてくださったので、熱々のうちにまずは内子を抱えた雌から。このホクホクした食感の内子がたまらない。

続いて、ねっとりしたミソが美味な雄。どちらかと言えば雄が好みの筆者、舌にまとわり付く濃厚なミソの旨味に、久々に悶絶してしまった。あぁ～口福。

現地在住のご夫妻、取り寄せる蟹がちゃんとした物かどうか確認するため、事前に一度試食されたそうだ。大連市内は別として、滞在していた開発区ではそれほど流通していないのだ。この時期は、大連で最も人気のワタリガニの旬なので、上海蟹には誰も見向きもしないのだという。

翌日の晩、今度は中国の方に海鮮料理のレストランに連れて行っていただいた。店内にはさまざまなサイズの生簀が設えられており、その中から魚介類を選んで好みの方法で調理してもらうスタイルだ。見ていると、端の方に「大閘蟹（ダーチャーシェ）」と上海蟹があるではないか！　だが、紐（ひも）でくくられたそれは、たったの8匹。大きな水槽にたくさんのワタリガニが泳いでいるのに比べると、申し訳程度に置いてあるといった感じであった。

それを眺めていると、すかさず現地の方が「それはおいしくないです。今は絶対こっち！」とワタリガニを指差した。なるほど、やっぱりね。かくして今度はコチラをいただくことに。

このワタリガニ、甲羅の形から菱蟹とも呼ばれるが、正式名称はガザミである。一番後ろの脚がオール状になっており、泳ぐことができるので、ガザミは四つ、タイワンガザミは三つ。大連でいただいたのはトゲ四つだったので、ガザミだ。活け車海老を茹でたものや、殻の大きなタイラギ貝のガーリックソースなど、ぜいたくなお料理がいろいろ登場し、最後にメインとして運ばれて来たのがワタリガニだった。「これが今の時期一番のご馳走です」と言う、地元の方々のワタリガニ愛が感じられる。やや淡泊ではあるが、甘味のある身を堪能させていただいた。

2夜にわたって、生息地もサイズも味もまったく異なる蟹を食べ比べることができて、ものすごく幸せであった。世界中には、多種多様な蟹がいる。今年もアレコレ食べまくるぞ！

※宿泊料飲施設ジャーナリスト。数多くの取材経験を生かし、旅館・ホテル、レストランのプロデュースやメニュー開発、ホスピタリティ研修なども手掛ける。

蟹かにワールド　その14　淡水VS海水

出国日本人数5%の増加に

11月推計値

日本政府観光局（JNTO）が12月20日に発表した2017年11月の出国日本人数（推計値）は、前年同月比4・6%増の154万7千人となった。前の月の10月（暫定値）は、前年同月比0・2%減だったが、プラスに転じた。

17年1～11月の累計は、前年同期比4・8%増の1642万人となった。17年の年間値は1800万人前後が予想されている。

地元の野菜など販売

観光魅力もアピール

牧之原市

静岡県牧之原市は12月12、13日、農産物、観光情報を発信するイベント「おいらの自慢市　静岡県牧之原市」を東京都内で開催した＝写真。JAハイナンの若手農家らが茶の試飲やレタスの販売などを行った。

牧之原市は、茶の産地として知られるほか、静岡の空の玄関口として富士山静岡空港がある。イベント担当者は「茶畑風景の観賞や海水浴などでぜひ来てほしい」と呼び掛けた。

インターネット徹底集客

第184回

2017年の振り返り

今号では、2017年の振り返りを行いたいと思う。

宿泊施設不足と言われていた時代は懐かしく、今は都市部を中心に、どちらかというと供給過多に陥っている。さらなる開業ラッシュを迎える最中にあって、都市部では生存競争が激しくなると予想される。

特にモバイルファーストの考え方は依然として重要であり、自施設のWEB戦略はスマホシフトしていかねばならない。

SNSに関しては、今年の流行語大賞が「インスタ映え」であったように、本コラムでも述べたフォトジェニック要素を意識したコンテンツ作りが今後、求められるであろう。何はともあれ、まずはInstagram（インスタグラム）で屋号検索をすることから。お客さま目線の第一歩が始まるので、実施してみてほしい。

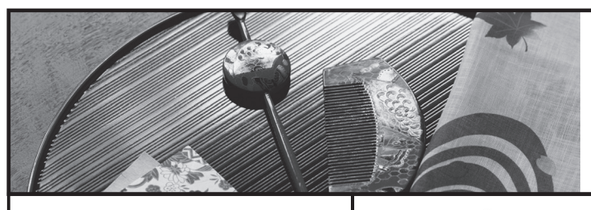
もう一つ、17年の大きな動きとして挙げるのであれば、テクノロジーの活用が宿泊業界にも及んできたことであろう。AIを活用したお問い合わせコンテンツや料金提案機能などは既に実現しており、VRを用いた宴会場の閲覧なども既に実装化されている。テクノロジーの進化は止まらないので、最新の情報をキャッチして、自施設に生かせるものは活用していくほかない。

「メタサーチの台頭」「新興OTAの伸長」「民泊と宿泊施設の融合化」など見逃せないキーワードもあるが、今回では代表的な事象について振り返りを行ってみた。

くどいようであるが、時代が移り変わり、テクノロジーが発達しても、旅をするという行為そのものは変わらず、結局はその施設に満足したか否かが、一番大事であるので、お客さまを喜ばす努力だけは常に忘れずに実行していただきたい。

（アビリティコンサルタント・プライムコンセプト取締役　内藤英賢）

WEBマーケティング



謹賀新年

平成30年 元旦

心とけあう、くつろぎの宿
代表取締役社長
渡邉 武嗣
政府登録国際観光旅館
ふくしま・母畑（ぼばた）温泉・やはたや
八幡屋
〒963-7831 福島県石川郡石川町母畑温泉
TEL 0247(26)3131(代)・FAX 0247(26)1220

ふくしま あだたら高原 岳温泉
陽日の郷 あづま館
会長 鈴木安一
Yasuichi Suzuki
〒964-0074
福島県二本松市岳温泉1－5
TEL 0243－24－2211
FAX 0243－24－2671
http://www.azumakan.com/

気仙沼温泉
気仙沼プラザホテル
宮城県気仙沼市柏崎1-1　TEL0226-23-1313（代）
気仙沼温泉
気仙沼ホテル観洋（サンマリン）
宮城県気仙沼市港町4-19　TEL0226-24-1200（代）
南三陸温泉
南三陸ホテル観洋
宮城県本吉郡南三陸町黒崎99-17　TEL0226-46-2442（代）
https://www.mkanyo.jp/

日本三景松島
花ごころの湯
松ぼっくりの宿
新宮田亭
翠松亭
代表取締役社長
加藤誠一
宮城県宮城郡松島町松島字垣の内38－3
TEL ○二二（三五四）五三七七（代）
FAX ○二二（三五四）三四七五
インターネットナンバー
(http://www.hotel-shintomi.co.jp)

盛岡・つなぎ温泉
AISHINKAN 愛真館
盛岡・つなぎ温泉
HOTEL SHI-ON 紫苑（しおん）
愛真館・ホテル紫苑
代表取締役社長
菊地善雄
〒020-0055
岩手県盛岡市繋字湯の舘74－2
TEL019(689)2288
www.hotel-shion.com

窓を開ければ野鳥の森と渓流のせせらぎ
政府登録国際観光旅館 日本野鳥の会協定旅館
養老牛温泉 湯宿 だいいち
代表取締役
長谷川　松美
〒088-2684
北海道標津郡中標津町字養老牛518番地
TEL（0153）(代)78-2131
FAX（0153）　78-2800
URL http://www.yoroushi.jp/
daiichi@yoroushi.jp

おかげさまで100年
登別温泉郷 滝乃家
代表取締役社長
須賀　秀郎
㈱登別温泉観光ホテル滝乃家
滝乃家別館 玉乃湯
茶寮 瀧乃家
北海道登別市登別温泉町162番地
TEL.0143-84-2222（代）

松島温泉
小松館　好風亭
代表取締役
小松　浩一
〒981-0213
宮城県宮城郡松島町松島字仙随三十五－二
TEL ○二二－三五四－五○六五

謹賀新年
平成30年元旦
株式会社 一の坊
ICHINOBO Co.,Ltd
代表取締役 髙橋征太郎
宮城県仙台市青葉区花京院2-1-10

山形県・銀山温泉　政府登録観光旅館
仙峡の宿 銀山荘
古勢起屋別館
代表取締役
小関　吉左衛門
〒999-4333
山形県尾花沢市大字銀山新畑85
TEL.0237-28-2322(代)　FAX.0237-28-2959
銀山荘 URL　http://www.ginzanso.jp/
古勢起屋 URL　http://www.kosekiya.jp/

かみのやま温泉
果実の山（かみのやま） あづま屋
代表取締役
吾妻　永朗（あづま　ながお）
〒999－3141
山形県上山市新湯1－23
TEL 023－672－2222
FAX 023－672－2225
mail to hotel@azuma-ya.co.jp
HP URL http://www.azuma-ya.co.jp

野口観光株式会社
野口観光マネジメント株式会社
野口リゾートマネジメント株式会社
登別　石水亭
望楼NOGUCHI登別
ザ レイクビューTOYA　乃の風リゾート
絶景の湯宿　洞爺湖畔亭
源泉の湯宿　洞爺ごきらく亭
層雲峡　朝陽亭
層雲峡温泉　朝陽リゾートホテル
函館湯の川温泉　湯元啄木亭
HAKODATE海峡の風
望楼NOGUCHI函館
北湯沢温泉郷　緑の風リゾートきたゆざわ
北湯沢温泉郷　きたゆざわ森のソラニワ
北湯沢温泉郷　湯元ホロホロ山荘
緑の森の教会
室蘭プリンスホテル　室蘭ビュー
第二プリンスホテル
箱根　きたの風茶寮
奥湯河原温泉　山翠楼SANSUIROU
奥湯河原温泉　海石榴つばき
代表取締役社長　野口秀夫
本社　北海道登別市登別温泉町二〇三－一
TEL ○一四三（八四）二三五○
FAX ○一四三（八四）三二五六